

## 反射性交感神経性ジストロフィー(RSD)の2症例

お 生 越 英 二 馬 庭 昌 人

キーワード：RSD, CRPS

### 要 旨

今回長時間繰り返し外圧が加わり発症した反射性交感神経性ジストロフィー (RSD：reflex sympathetic dystrophy) の2症例を経験した。異常に強い痛みを訴える場合は本疾患を念頭におき早期診断，早期治療が大切である。

### はじめに

RSDは整形外科領域ではさまざまな種類の外傷や手術の合併症として位置づけられており医事訴訟の原因となることもある。

診断が遅れ，適切な治療がおこなわれないと患者の人生を変えることがあり，注意を要する。今回2症例のRSDを経験したので若干の文献的考察を加え報告する。

### 症 例

症例1：71歳女性

主訴：右手痛

既往歴：高血圧症

現病歴：初診3日前に150人分の白あえを作ろうとしてすりこぎを2時間近く続けておこなった。

現症：右手は灼けつくような痛みを訴え，睡眠障

害を伴うほどだった。図1のごとく右手は腫脹，発赤あり，握ったままで自動運動ができず，右手の触診もできなかった（触らせない）。薬物療法はノイロトロピン6T投与し，理学療法は温冷交代浴を開始した。またホームエクササイズとして1日3回温冷交代浴の継続を指導した。約3ヶ月



図1 症例1 初診時

Eiji OGOSHI et al.

生越整形外科クリニック

連絡先：〒694-0064 大田市大田町大田イ263-8